

科学技術を生かした防災・減災政策の国際的展開に関する検討委員会（第24期・第4回）

議事録

1. 日時 平成30年6月29日(金)15:00-17:00
2. 会場 日本学術会議 6-C (2、3) 会議室
3. 議題
 - (1) 委員の紹介と委員会の運営体制
 - (2) 第24期2018年3月までの活動経緯と今後について
 - (3) 前回議事録確認
 - (4) 第3回委員会で議論された実施計画案の確認
 - (5) 国際関連・国際連携活動の報告と予定
 - 1) 2018年3月 GADRI (京大防災研)
 - 2) 2018年4月 IRDR SC (北京)
 - 3) 2018年4月 第2回災害リスク軽減のアジア科学技術会議 (北京)
 - 4) 2018年7月 アジア防災閣僚級会議 (ウランバートル)
 - 5) 2018年10月 防災推進国民大会2018 (東京ビッグサイト)
 - 6) 2018年10月 成都会議 (成都)
 - 7) 2018年12月 アジア学術会議 (日本学術会議)
 - 8) 2019年5月 グローバルプラットフォーム2019 (ジュネーブ)
 - (6) グローバルレジリエンス会議(2017年11月)特集号(JDR)
 - (7) その他
4. 配布資料
 - 資料24-04-01 委員名簿
 - 資料24-04-02 委員会活動の経緯と今後
 - 資料24-04-03 前回(第3回)議事録
 - 資料24-04-04a Nation's Synthesis
 - 資料24-04-04b 国家防災組織シンセシス提案
 - 資料24-04-04c Nation's Synthesis概念図
 - 資料24-05-1) GADRI Newsletter
 - 資料24-05-2) a, b, c IRDR SC (北京) 関連資料
 - 資料24-05-3) 2nd ASTCDRR 北京宣言
 - 資料24-05-4) a, b, c アジア防災閣僚会議関連資料
 - 資料24-05-5) a, b 防災推進国民大会2018
 - 資料24-05-6) 成都会議コンセプトノート (案)
 - 資料24-05-7) アジア学術会議 (日本学術会議) 会告
 - 資料24-05-8) a, b, c グローバルプラットフォーム (ジュネーブ) 関連資料
 - 資料24-06 特集号(JDR)準備状況

5. 出席者 17名（敬称略、名簿順）

三木浩一、小池俊雄、春山成子、大西隆、小松利光、塚原健一、花木啓祐、山川充夫、小森大輔、緑川光正、望月常好、山岡耕春、天野雄介、西川智、林春男、ラジブショウ、川崎昭如

陪席者 2名（敬称略、五十音順）

池田鉄哉（ICHARM）、中島 壮一（NIED）

6. 議 事

アクション・アイテム

(1) 委員の紹介と委員会の運営体制（資料24-04-01）

(2) 第24期2018年3月までの活動経緯と今後について（資料24-04-02）

- ・ 2018/1 の幹事会で、第 24 期の本検討委員会の継続を承認。
 - 4 月からの新メンバー：名簿 18 番小森委員～24 番山岡委員（いずれも IRDR 分科会委員）。
 - ✓ 小森委員、緑川委員、望月委員、山岡委員より挨拶。
 - タスクチーム・メンバーとして継続参加：名簿 25 番天野委員～33 番ラジブショウ委員（いずれも特任連携会員）。
- ・ 執行部は、第 23 期の体制を基本的に継承。
 - 委員長：小池委員
 - 副委員長：林委員
 - 幹事：佐竹委員、川崎委員（塚原幹事の後任）

(3) 前回議事録確認（資料24-04-03）

<議事録公開の新しいガイドライン>

- ・ 会議開催後 8 週間以内に本検討委員会で内容を確認し、最終的に小池委員長の判断で日本学術会議事務局会議担当に提出し、開催後 9 週間以内に日本学術会議ウェブサイトで開催する必要がある。
 - 本検討委員会（第 4 回）の議事録から新しいガイドラインを適用。

(4) 第 3 回検討委員会で議論された実施計画案の確認

<2017東京会議の開催報告>

- ・ 2017/11 に日本学術会議の持続会議として開催した東京会議（レジリエンス・フォーラム）の成果を日英の冊子に整理。
 - 英語版は、内閣府の広報誌「ぼうさい」に掲載した開催概要の英訳に加え、アジェンダ、オープニングセッション、ハイレベルパネル、ワーキングランチのレポート、および各 WG のポリシーブリーフ、コンセプトノートを掲載。
 - 和訳版は開催主旨、議事次第、会議概要を記載。
- ・ 2018/4 に各 WG の共同議長や共同主催機関の代表に冊子内容を連絡済み。
 - 加筆・修正はオンライン版で行う。

<実施計画案の確認（資料24-04-04a, b, c）>

- ・ 2017 東京会議では、ナショナルプラットフォームを科学技術の面から支援するためのガイドライン

の作成と、防災減災の科学技術についての現状と課題、対応方策などに関するシンセシスの定期的実施を提案。

- ・ タスクフォース電話会議および第2回、第3回の本検討委員会での議論をもとに実施計画案を集約。
- ・ 2019/5のグローバルプラットフォームでは、日本や他国での取組みの具体例を出して議論を進める。
 - 2017 東京会議から1年半後に、アクションプランだけを提示してもインパクトがない。
 - 水災害に関してフィリピンとミャンマーでは基本的な枠組みを構築している。
 - 前回の IRDR の Scientific Committee で、インドネシアとネパールのナショナルプラットフォームと IRDR ナショナルコミッティが重なることが議論された。
 - 2018/10の成都会議で実施計画案の雛形を議論し、グローバルプラットフォームに繋げる。
 - ✓ アジア防災閣僚級会議までに、防災科学技術研究所（林委員）、東北大学災害科学国際研究所（小野委員）、東京大学地震研究所（佐竹委員）、京都大学防災研究所（寶委員）から具体例をインプットしてもらおう。
- ・ 活動の目標（3）：日本国内でも地域によって防災情報伝達や防災リテラシーが異なる。1993年のネパール災害でも盆地と他地域とで情報伝達が異なったように、どのように市町村や地域レベルでの防災リテラシーを向上させるかを他国においても考える必要がある。
 - 日本の市町村でも自分たちの行政区域しか考えられていない。
 - 各国でシンセシスの実施を支援するオンラインの情報基盤を構築して、それぞれのステイクホルダーが我がこととして自分たちの問題を考えてもらえる仕組みを用意していきたい。
 - ✓ 行政担当以外の他分野、市町村境を超えた広域的な防災を考える機会になると良い。
 - 水分野では、2015年鬼怒川の破堤などの教訓を経て2017/6に水防法を改正、水防法に基づく大規模氾濫減災協議会が全129地区で設置された。情報基盤を通して、このようなネットワークを県や市町村長の首長、国、学識経験者や学術機関等と繋がれると良い。

(5) 国際関連・国際連携活動の報告と予定

1) 2018年 3月 GADRI (@京都大学防災研究所) (資料24_04_05_1)

- ・ 3/14にビジネスミーティング、3/15にオープンディスカッションフォーラムを開催。第3回の本検討委員会で議論した実施計画案を、京都大学防災研究所の重要なアクティビティとしてコミットすることに賛同してもらった。

2) 2018年 4月 IRDR Scientific Committee (@北京) (資料24_04_05_2a, b, c)

- ・ 4/15-16に北京で開催。1日目はScientific Committeeメンバーのみ、2日目はナショナルコミッティやInternational Centres of Excellencesのメンバーも入った拡大会議を実施。
- ・ IRDRのAction Plan 2018-2020にシンセシスレポートに関する項目が正式に記載され、各国のシンセシスの実施を支援する情報基盤の構築に取り組むための新しいワーキンググループ「SFDRR Synthesis Report」が設置された。
 - 1日目、林委員により同ワーキンググループのプレゼンを実施。
- ・ STAGの中でも関連の議論がある（ラジブ委員と多々納委員がUNISDRのSTAGメンバー）。
 - Cross-Cuttingでの教育研究や能力開発のワーキンググループで、シンセシスシステムを作りながら科学技術の能力開発に繋げるという議論がある。

3) 2018年 4月 第2回災害リスク軽減のアジア科学技術会議 (@北京) (資料: 24_04_05_3)

- ・ IRDR の Scientific Committee に続いて開催。
- ・ 2年前にバンコクで開催され(寶委員、ラジブ委員、川崎委員、竹内前委員が参加)、第1回会議で承認された“Actions for Science and Technology-based DRR”を追認。
- ・ 7月のアジア防災閣僚級会議において、当会議の結果を科学技術セクターから提案する。
 - ラジブ委員の協力のもと、優先行動1の4項目に日本からの提案を追加。
 - 7/3のモンゴルでの Asia Science Technology Academia Stakeholder Group Consultation で広範囲の人から意見もらい、7/6の Summary Plenary Session で科学技術セクターからの公式のコミットメントとしてまとめる。

4) 2018年 7月 アジア防災閣僚級会議 (@ウランバートル) (資料24-05-4a, b, c)

- ・ 主催は ASTAAG、北京師範大学の教授とラジブ委員が共同議長。日本の全体取りまとめは内閣府防災。
- ・ 前述の第2回災害リスク軽減のアジア科学技術会議のステートメントの議論が目的。
- ・ Actions for Science and Technology-based DRR の14項目に対して、アクションの優先度や必要なリソースのを IRDR が約2ヶ月かけて調査。約130名が調査に回答。
- ・ 各ステイクホルダーがこの2年間で実施してきた科学技術の会議やイニシアティブを紹介する。
 - 小池委員長からシンセシスレポートに関する紹介。
- ・ 科学技術関係では以下の委員・関係者が参加
 - Thematic Event: DRR in Action Technology & Innovations: 鈴木アジア防災センター所長。
 - サイドイベントの「Ignite Stage and Market Place»: 西川委員。
 - 閣僚ランチミーティング、Ministerial Luncheon on the theme WATER AND DISASTER RISK REDUCTION の取りまとめ: 廣木委員。

5) 2018年10月 防災推進国民大会2018 (@東京ビッグサイト) (資料24_04_05_5a, b)

- ・ 10/13 12:30-14:00: 本検討委員会と IRDR 分科会とで共同提案のセッションを実施 (701.702)。
 - 14:30-16:00: 内閣府主催の国際防災セッション (国際会議場)。
 - 16:30-17:30: 防災学術連携体のセッション (国際会議場)。
- ・ ぼうさい国大の企画案をタスクチームの寶委員と川崎委員を中心に作成した (資料 24_04_05_5b)。
 - 開催にあたっては ICHARM 池田氏にもご支援いただく。
- ・ 一般参加者にも分かりやすいようにタイトルを工夫。
- ・ 「情報」による防災減災に焦点を絞り、科学技術コミュニティがナショナルプラットフォームの構築を支援するためのガイドラインの作成と、科学技術分野のシンセシスに向けた活動を議論する。
- ・ 今後の科学技術の活用を産官学、市民代表らとの対話 (パネルディスカッション) を通して纏める。
 - ぼうさい国大の閉会式では、各セッションからの声明をまとめて宣言文を出す。
- ・ 本企画案は本検討委員会で承認された。
 - IRDR分科会で了承後、8月の幹事会で承認してもらおう手続きを取る。
- ・ 各発表者の時間が短く詳細を語るのが難しいので、深く知りたい人のための配慮があるといい。
 - パネルディスカッション前のショートスピーチとして捉えても良いのでは。
 - 各講演者、シンセシス、ナショナルプラットフォームについての資料があると良い。
 - 質問票を集めて講演者に答えてもらう等、参加者からの質問に対して講演者に効果的に発言いただけるよう工夫する。

6) 2018年10月 成都会議 (@成都) (資料24_04_05_6)

- ・ 2017東京会議のフォローアップの位置付けでIRDRのICoE 会合として開催。日本学術会議が共催。
- ・ UNISDR、IRDR、日本学術会議の支援のもと、2017東京会議の共同議長らが参加する予定。
- ・ 共同議長やタスクフォースとのテレコンで、事前に実施計画の原案を作成。当会議中に内容を議論、結果を2019年のグローバルプラットフォームで提示する。
 - ▶ 共同議長との電話会議を7月に1回、9-10月に2回実施して素案をまとめていく。
 - ▶ IRDRのワーキンググループやSTAGなど様々な機関と協力の枠組みを築きながら進める。
- ・ 四川地震を契機に、四川大学は香港ジョッキークラブから多額の資金を受けるなど協力関係にあり、開催に向けた協力を前向き。

7) 2018年12月 第18回アジア学術会議 (@乃木坂) (資料24_04_05_7)

- ・ 日本学術会議で開催。SDGsをテーマにDisaster Risk Reduction (SDGs 9,11,13) のセッションでシンセシスおよびナショナルプラットフォームの議論をしたい。
- ・ 基本的には投稿された論文数を元にプログラムが編成されるが、DRRの特別セッションの設置を要請中。
 - ▶ 日本およびアジア4カ国 (フィリピン、ミャンマー、インドネシア、ネパール) にも声掛けし、アブストラクトの締め切り7/17に間に合うよう投稿する。
 - ▶ 口頭発表なので、学术论文でなくても良い。
- ・ 海外からの参加に対して基本的に旅費サポートはなし。

8) 2019年5月 グローバルプラットフォーム2019 (@ジュネーブ) (資料24_04_05_8a, b, c)

- ・ UNISDRが2年に1度世界中の国に呼びかけて防災のテーマについて議論する。
- ・ High-Level Dialogues、Working Sessions、Special Sessionsを22のセッションで構成。コンセプトノートの内容は仙台会議で策定したターゲットの進捗度の議論。
- ・ グローバルアセスメントレポート (GAR) の作成も並行で進められている。
- ・ 本検討委員会からシンセシスとナショナルプラットフォームに関するGARの原稿協力を打診中。回答期日の6/15以降も連絡なし。承諾されれば原稿を8月にUNISDRに送付。
 - ▶ 本検討委員会のタスクフォースで議論→西川委員と廣木委員が執筆の取りまとめ。
- ・ オーガナイズコミッティーの募集に対し、日本学術会議の参加は佐谷委員経由で申請。
 - ▶ 内閣府は国としてコミット。
 - ▶ Working Sessions2 : National and Local DRR strategies : 佐谷委員。
 - ▶ Working Sessions 11 National DRR strategies and Climate NAPs : 小池委員長
 - ▶ High-Level Dialogues 5 Achieving the SDGs through Climate and Disaster Risk Reduction : 池田氏
- ・ オーガナイズコミッティー決定後は各セッションの登壇者を推薦していく。
- ・ 5/14にSTAG、IRDR、日本学術会議で科学技術の現状を把握するイベントを提案中。
 - ▶ STAG、IRDRと日本学術会議でそれぞれ2時間ずつのセッションを持つ。
 - ▶ 150名程度の部屋をUNISDRで準備している。
- ・ 実施計画案の実施方法を様々な機会を使って進めないと国際的な合意形成は難しい。

(6) グローバルレジリエンス会議(2017年11月)特集号(JDR)

- ・ 12月の出版を目指して論文投稿を受け付けている。最終締め切りは6月末。

(7) その他

- ・ 成都会議について共同議長会議が数回実施された後に開催したく、次回の本検討委員会の開催は9月を予定。
 - 実施計画案を実現するように議論を進める。
- ・ UNISDRの新たなSRSGに水鳥真美氏が就任。グローバルプラットフォームにも参加。
 - 就任前の2018/2月、5月に来日し、日本学術会議の活動紹介をした。10月頃に再来日予定。

表 防災・減災政策の国際的展開に関連する国際会議（開催順）

#	会議名	期間	開催地	備考
1	第2回災害リスク軽減のためのアジア科学技術会議	2018/4/17-18	中国・北京	
	関連 URL : http://www.astcdrr2018.org/			
2	汶川地震10周年シンポジウム	2018/5/12-14	中国・成都	
	関連 URL : http://www.4thicce.com			
3	Water for sustainable development	2018/6/20-6/22	ドゥシャンベ	廣木委員が運営委員
	関連 URL : https://wsdconf2018.org			
4	アジア防災閣僚級会議	2018/7/3-7/6	モンゴル・ウランハートル	
	関連 URL : https://www.unisdr.org/amcdrr2018/			
5	防災推進国民大会 2018	2018/10/13-10/14	東京ビッグサイト	
	http://bosai-kokutai.jp/			
6	成都会議	2018/10/16-10/17	中国・成都	
7	第18回アジア学術会議	2018/12/5-12/7	日本学術会議	
	https://sca18.mediatelier.com/			
8	グローバル・プラットフォーム	2019/5/13-17	スイス・ジュネーブ	
	関連 URL : https://www.unisdr.org/we/coordinate/global-platform			
9	第17回世界地震工学会議	2020/9/14-18	日本・仙台	日本政府観光局（JNTO）主催の「平成29年度国際会議誘致・開催貢献賞」で誘致の部で受賞
	関連 URL : http://www.jaee.gr.jp/jp/wp-content/uploads/2016/12/bid_17WCEE_161116_20mb.pdf https://www.jnto.go.jp/jpn/news/press_releases/pdf/20180201_2.pdf			